

生涯にわたり 誰もが体を動かせる スポーツの普及を目標に

市スポーツ推進委員協議会
会長 中村 和嗣さん (三ツ石町)



『スポーツ推進委員協議会』の会長を務める中村和嗣さんは、自身の体育指導委員の時代からのベテランで、昨年11月には功労者として全国表彰を受けています。

中村さんがこの役を引き受けるきっかけは、小方地区の体育指導委員に欠員が生じていた26年前にさかのぼります。

「市役所にいた同級生から印鑑を持って役所に来いと急に連絡があり、承諾の書類にはんこを押すことになりました」。当時は半ば強引な勧誘だったと言いつつ、今では笑い話のように話す中村さんです。

以来、市民を対象としたいいろいろなスポーツ関連行事に尽力してきました。近年は、ニュースポーツとい

総 合体育館に楽しげな声が響きます。5月12日に行われた『障がい者ふれあいスポーツ大会』のクライマックス、2チームに分かれた玉入れ競技で、一つ一つの玉が宙に放り投げられると一喜一憂の表情が浮かび上がります。

この大会には、さまざまな団体や高校生が関わっていますが、その中の一つ、スポーツ推進委員も準備や運営に携わっています。開会前、人けのない体育館で、各種目で使われる道具の用意や器具のセッティングをする姿がありました。

しかし、課題もあるといいます。

「スポーツ推進委員の定員は23人なのですが、現在19人と定員割れをしています。立戸地区や木野地区などが空白になっているので、顔見知りになった人に、誰かいないかと相談したりしています。推進委員は遊ぶのもスポーツも一生懸命な人が向いているのでは」。加えて行事も増えてきて、新しい種目を身につける時間がないのが悩みともいいます。

そんな中でも参加者から感謝の言葉を聞いたときは、この役をやったよかったと思え、何より励みとなると目を細めます。

プロのように頂点を極めるスポーツではなく、誰もが生涯にわたり体を動かせるスポーツの普及を目標に掲げ、スポーツを通して、人や地域とのつながりが培われていく、そんなふうに考えている中村さんでした。

われるグラウンドゴルフやカローリング、ペタンクなど屋内外で気軽に楽しめる競技の普及に努めています。

「新しい種目が増えてきており、各地で行われる研修会に参加して習って身につけてきます。そこでほかのまちの人と交流し新たなアイデアをもらったりするのも楽しみです」。そう語る中村さんは、ニュースポーツの普及とともに新たな関係づくりもかかさないようです。



『障がい者ふれあいスポーツ大会』では、さまざまなニュースポーツを楽しみました。(左) 氷上のカーリングに似た『カローリング』(中) 得点が書かれたピンにボールを当てて得点になる『ピンボウリング』(右) 室内グラウンドゴルフ。慎重に狙いを定めて。

市民のスポーツをサポート。

ひと・まち・元気の応援隊
スポーツ推進委員というエール



1月7日に晴海臨海公園で開催された『瀬戸内リレーマラソンin大竹』。ランナーたちが公園内のコースで健脚を競う中、グラウンドに設けられたスポーツ体験コーナーでは、子どもたちの楽しむ姿がありました。そこで運営に携わっているのが、スポーツ推進委員という人たちです。今回は、その推進委員の活動の一端を紹介します。【取材 企画財政課】

生涯スポーツで元気なまちに 募集 スポーツ推進委員

問い合わせ スポーツ推進委員協議会事務局
(教育委員会生涯学習課内)
☎53-6677



活動内容の詳細はこちら
のQRコードから。



申し込みはこちら
のQRコードから

スポーツ推進委員は、生涯スポーツの振興を図るため教育委員会から委嘱され、市内で活躍しています。

主な業務

- スポーツの実技指導
- スポーツ活動促進のための組織の育成
- 市や各種団体が行うスポーツ・健康づくり事業への協力
- スポーツへの理解を深めるための啓発活動

任期 令和6年4月1日から令和8年3月31日(2年間)

報酬 月額7200円

体育指導委員・スポーツ推進委員のあゆみ

昭和32(1957)年 都道府県委嘱の体育指導委員が約2万人誕生。

昭和36(1961)年 「スポーツ振興法」制定。市町村の教育委員会が任命する非常勤公務員として体育指導委員を置くことになる。【役割：実技指導・助言】

昭和47(1972)年 保健体育審議会答申。

【役割：プランナー・実技指導】

平成元(1989)年 保健体育審議会答申。

【役割：スポーツ振興の推進者・コーディネーター】

平成12(2000)年 「スポーツ振興法」一部改正。各教育委員会の判断で選任することになる。(任命から委嘱)

平成12(2000)年 女性や有資格者の積極的な委嘱、研修の充実。

平成23(2011)年 「スポーツ基本法」施行。スポーツ推進委員に名称変更される。【役割：スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整・指導・助言】

スポーツ推進委員協議会は、市などが主催する各種スポーツ行事・事業への協力など地域のスポーツ振興に取り組んでいます。

主な協力行事・事業

市民ラージボール卓球大会、市民グラウンドゴルフ大会、各地区健康づくり事業、瀬戸内リレーマラソンin大竹など



(上)『障がい者ふれあいスポーツ大会』の閉会式で、健闘した選手たちに拍手を送るスポーツ推進委員の皆さん(右)室内グラウンドゴルフでバッターを決める選手を見守る中次さん。



スポーツで 大竹を元気に していきたい

市スポーツ推進委員協議会
副会長 中次 千穂さん
(御園台)

「スポーツを通して笑顔の輪を広げていきましょう。そう話してくれたのは、スポーツ推進委員の中次千穂さん。12年前に委嘱され、現在は協議会の副会長を務めています。

元々スポーツや体を動かすことが好きな中次さんでしたが、就任前は仕事を持っていたこともあり、役を固辞していたそうです。しかし熱心に誘われたことから、推進委員を引き受けたと振り返ります。

「私は司会をしたり指導をしたりする役割が多いのですが、メンバー各人は自分の持ち味を生かして運営に携わっています」。

活動の中で横のつながりが生まれて仲間が増えていくことや、自分が元気になる生きがいを感じることが喜びだといいます。

「スポーツ推進委員の活動で、微力ながら大竹を元気にしていきたい」と力を込める中次さんでした。

子どもたちやシニアの人たちが 喜んでくれます

市スポーツ推進委員協議会
副会長 柴田 喜代人さん
(安条)

「ま たやってみたいですか?」。スポーツ推進委員副会長の柴田喜代人さんが子どもたちに問いかけます。小方小学校で放課後の児童がさまざまなプログラムを体験する『かめっこクラブ』では、6月6日に室内ペタンクを楽しみました。

柴田さんは、推進委員29年の大ベテラン。



子どもたちにペタンクの楽しさを教える柴田さん。

「今日みたいに子どもたちに喜んでももらえたり、まちでシニアの人たちが声をかけてくれたりするのうれしい」。幅広い世代の人と接することが喜びだと頬を緩ませます。

チーム戦でペタンクを競った福知怜奈さん(4年)は「初めはルールが分からなかったけれど、コツがつかめると楽しかった。球の投げ方で転がり方が変わるので計算して投げました」と工夫の様子を話していました。



(上右) 6月16日に行われた『自治会対抗ラージボール卓球大会』で、参加者の受け付けを担当(上左)卓球協会の方と協力して大会の準備や片付け(下)月1回の定例会で、スポーツイベントの事前打ち合わせ。



ペタンクは球を投げてビュットという目標との距離の近さを競います。巻尺で測る様子を真剣に見つめる子どもたち。



1月7日に行われた第1回目の『瀬戸内リレーマラソン』。晴海臨海公園内を力走する各チーム。

12月15日(日)に開催決定！ 瀬戸内リレーマラソン in大竹

問い合わせ 実行委員会事務局(生涯学習課内)
☎53-6677



特設ホームページは
こちらから。

42・19.5kmリレーマラソンや子どもから大人まで参加できる種目のほか、飲食ブースや体験イベントも予定しています。

エントリー受け付けは8月開始予定。協賛、出展の申し込み受け付けも同日開始予定です。

最新情報は、特設ホームページに随時掲載されます。

ところ 晴海臨海公園